

## 第一節 世に役立つ力を引き出す

この神示教会は、神のご指示の下、供丸齋先生がおつくりくださいました。神示教会の礎を築く草創期には、神の实在を味わうため、何でも見通す神のお力を求めて、多くの人々が群がりました。そして、救われた人の口から口へと伝わって、信者が増えていったのです。

しかし、そこには、困ったときの神頼みのような感覚もありました。それは、本当に救われた姿ではなかったのです。体調が良くなったり、仕事がうまくいくようになったりするのは、一時のことです。真実の救いは、一時の奇跡、形の救いではないということです。

まことの救いは、悔いのない人生を歩み抜けることです。誰もが持っている世に役立つ力、運命を生かして、生きがいのある毎日を送り、人生に何の悔いも残さないことです。それがかなう救いの道を、供丸齋先生が開いてくださいました。

神は、実在しています。神は、人間一人一人を、運命を通してお守りくださっています。その運命を枯らすことなく、磨き上げる努力をします。その方法を知っていれば、誰もが悔いのない人生を歩み抜けます。

一人一人が運命に導かれた人生を歩めば、そこに争いも生まれず、大きな病で苦しむこともなく、一部の人だけがもうかるようなこともありません。憎んだり、恨んだり、ねたんだりすることのない、素晴らしい環境になります。

それには、「道を守れば光が通る」と言われるように、神の教えの神、仏、人の道を守って暮らす必要があります。教えを、自分自身の物事の捉え方、人間性、価値観、判断基準に据えるのです。そこに、希望の光が通ります。

希望の光が通ると、どのような現象が起きるかといえば、各自が持つ運命が引き出され、その力に守られた生き方ができるようになります。そうした時代を迎えるために、供丸齋先生が使者として神の实在を示され、神直々の運命を持たれる供丸齋先生が開運への道を開いてくださいました。そして、誰もが悔いのない人生を歩めるようになったのです。

神示教会は、世に役立つ人をつくる環境です。一般の人々は、世に役立つ自分となるには、さほど難しいことはないと思っているかもしれません。しっかりと努力し、良い学校を出て、真面目に働いていけば、社会の役に立っていけると思う人も多いでしょう。しかし、ただの努力では、与えられた運命を引き出し、磨き、真に世に役立つことはできないのです。

時代は、どんどん変わっていきます。社会は、調和する方向に向かっています。季節が移り変われば、それなりの暮らし方があるように、時代の変化に合わせて生きることが必要です。それには、神の教えを学ぶことです。学ぶ中から、社会の変化、その傾向を知るのです。